要旨

ローコード、検討だけでは済ませない
～ローコードは、ウェブ開発の主役になれるか？～

1. はじめに

近年、プログラムコードをほとんど記述せずにウェブサービスやアプリケーション開発ができるツール“ローコード”が注目を浴びている。

また、一切のコーディングを必要としない“ノーコード”も登場し、これまでの「開発と言えば、スクラッチ開発」という図式は様変わりしつつある。

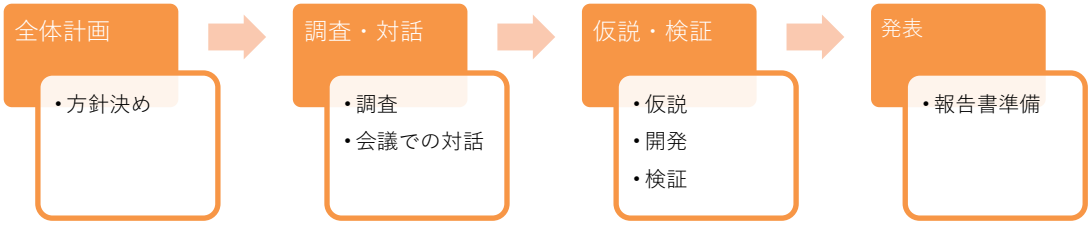
「コーディングが少なくて済む手軽さ、開発スピードが速いというイメージがあるが、本当にそうなのか？」
「活用することで実際にどんなことが実現できるのか？」

素朴な疑問ではあるが、机上の論理やネットの情報からは分からないことがある。
「実際に触れ、研究をすることで深く理解し、ローコードによる業務課題解決やコスト削減が実現できるのでは？」という想いから、本研究グループはスタートを切った。

2. 研究の進め方

課題について各自が調査・研究してきた内容を会議で共有・発表するスタイルを主体として活動している。

本研究グループは、ローコードについての知識が少ないメンバーと、見識のあるメンバーが半々の構成だったこともあり、仮説設定フェーズ以降は前者を「課題設定・検証（ユーザー）チーム」、後者を「開発チーム」という 2 チーム制とした。



3. 仮説

ローコードを活用することで、以下の課題解決が可能となるのではないかと考え、仮説を設定した。

1. 業務改善や生産性向上にローコード開発ツールが役立つのではないか
2. 非エンジニアでも使えるツールがあるのではないか

©2022 UNIRITA Users' Group

4. 検証・評価

2 つの仮説に対し、それぞれ次の通りに検証を実施した。

1. 業務改善や生産性向上にローコード開発ツールが役立つのではないか

・具体的な課題：問い合わせの管理が個人毎にまちまちのため、一括管理が出来るようにしたい

・検証方法：選定の結果、ローコードツール「Microsoft PowerApps」「Outsystems」を使用し、実際に課題解決のためのアプリ開発を行った

2. 非エンジニアでも使えるツールがあるのではないか

・具体的な課題：課題を解決するという目的達成のためには、ローコードに拘る必要はないのではないか

・検証方法：選定の結果、ノーコードツール「STUDIO」を使用して美容院のホームページを制作し、スクラッチ開発と比較

5. 検証結果

1. についての検証結果

・アプリ導入により、従来よりも業務負荷（想定）が 40%削減の見込み

・所要時間、コスト、カスタマイズの点でローコードの方がスクラッチ開発よりも優位性がある

2. についての検証結果

・非エンジニアでも簡単に使えるツールである

・必要スキル、所要時間、コストの点でノーコードの方がスクラッチ開発よりも優位性がある

6. まとめ

実際にアプリ開発・サイト制作を行うことで、ローコード(ノーコード)ツールがスクラッチ開発よりも“早く、安く、容易に”課題解決が出来ることが分かった。

即ち、ローコード(ノーコード)は変化の激しい現代に適したツールである。

※ Microsoft PowerApps は、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における商標または登録商標です。

※ OutSystems は、 OutSystems, Inc.の商標または登録商標です。

※ STUDIO は、STUDIO の商標または登録商標です。

※ 文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標または各社に帰属する標章もしくは商号です。

©2022 UNIRITA Users' Group